

十勝連峰・十勝岳（2077m）・美瑛岳（2052m）登山

日時 2016年7月7日（木）～9日（土）

参加 石川誠・佳子



富良野岳（1912m）

行程 7/7日（木）晴

横須賀 8:00 発羽田駐車場に車を置き羽田空港 9:00 着空席なく

14:00 羽田発、旭川空港 15:40 分着、レンタカーを借りて白金温泉には 17 時頃に到着

7/8日（金）

白金温泉で握飯を作って貰い 5 時発—5:10 望岳台 5:30 発—6:40 十勝岳避難小屋

6:45—途中 2 回ほど休憩し、9:30 十勝岳頂上着 9:50 発—12:50 美瑛岳 13:15 発

—14:15 美瑛岳分岐 14:30—16:50 雲の平分岐 17:00—望岳台 17:50—

白金温泉 17:30 着

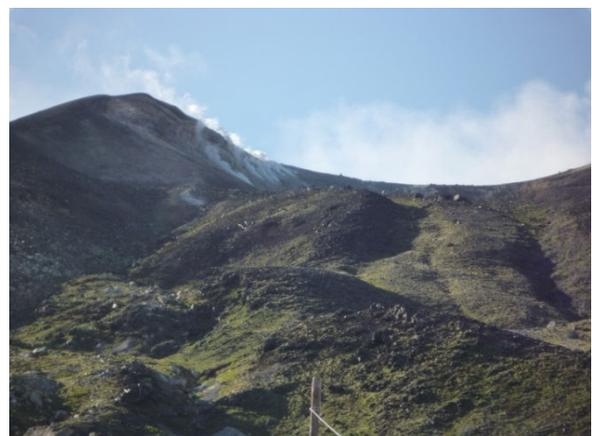
7/9日（土）

白金温泉 9:00 発—9:00 十勝岳温泉 10:00 発—11:00 旭川空港 13:40 発—

羽田空港着 15:30—17:00 帰宅



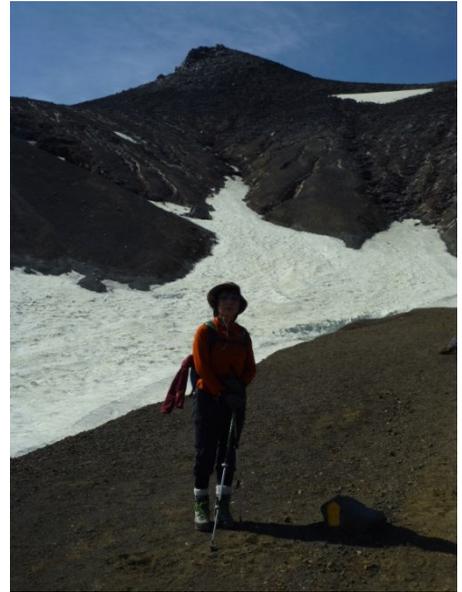
望岳台から十勝連峰



噴煙上がる昭和噴火口



稜線から十勝岳へ ガスが湧いている



十勝岳を背景に



美瑛岳 (2052.3m)



十勝岳稜線からの俯瞰



富良野岳



十勝岳稜線肩より俯瞰



上ホロカメトク山～富良野岳への稜線



十勝岳山頂



美瑛岳への稜線・後方に大雪山の山並み



十勝岳から美瑛岳の稜線 砂礫



美瑛岳を目指して



ミヤマキンバイ



エゾノツガザクラ



ミネズオウ



イワウメ



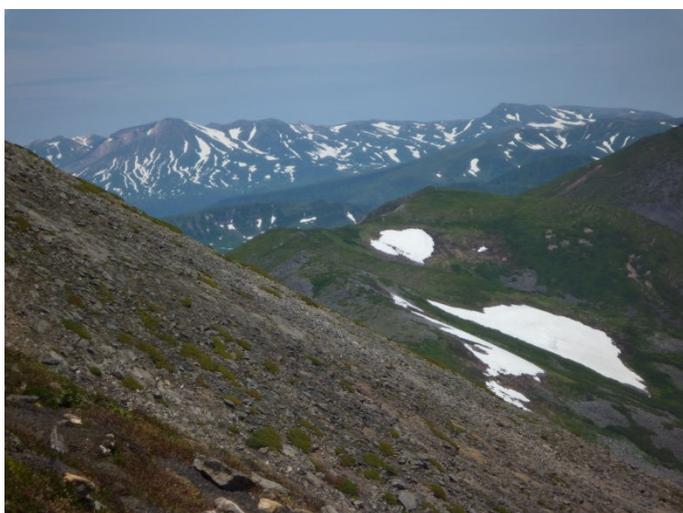
チングルマ



キバナシャクナゲ



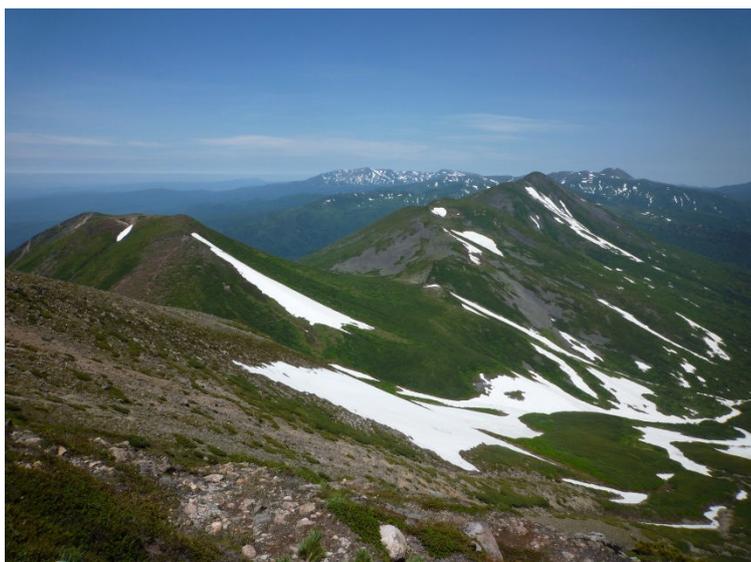
遠くにトムラウシを望む



大雪山・旭岳方面



美瑛岳稜線から十勝岳



美瑛富士（左）～旭岳方面





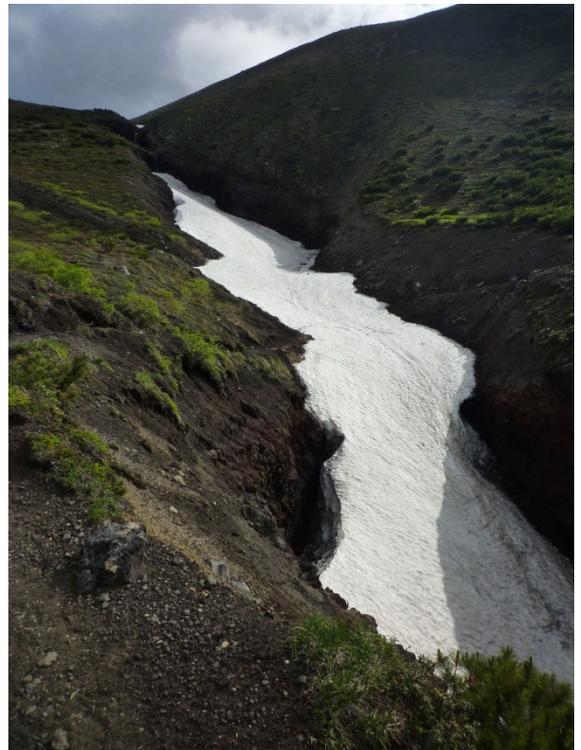
快晴の美瑛岳頂上にて



美瑛岳頂上から十勝岳を望む



エゾコザクラ



谷には雪溪が



エゾノツガザクラ



カラマツソウ



イワブクロ



カラマツソウの群落



雲の平・分岐指導標



十勝岳温泉登山口からの上カミホロトク山と富良野岳への稜線

登山を終えて

十勝岳は会の山行として何年か前に幌尻岳、トムラウシと一緒に登る計画で実施したが、生憎十勝岳を残して雨の為断念した経緯があった。その後帰宅し新聞を見ると幌尻岳で豪雨に見舞われ、小屋に閉じ込められた登山者たちがヘリコプターで救出されたとの記事を見て、大変印象に残る山でもあり、今回は再チャレンジとして実施した。そして永年、雪に輝く十勝連峰の写真を見て是非行ってみたいと山でもあった。

登山道は望岳台から十勝岳特有の火山礫の道をゆっくりと登って行く、昭和噴火口からの噴煙を右に見ながら、稜線直下の急坂を登りきると、遥か右手に頂上が見える。

ルートは月の砂漠を思わせる道でなだらかに登って行く。中学生と一緒に親子連れの登山者が早くも降りてくる。早いですねと声を掛けると稜線上にガスが流れ、喘息が出ると困るので止む無く下山してきたとのこと、ガスが多い時は要注意だ。再度状態の良い時に頑張ると言葉を交わす。

肩には岩場を1ピッチ登って肩に出る。頂上はその上で迎えてくれた。天候は快晴で気持ちが良い。頂上からは目の前の美瑛岳を通して大雪山の山並み、トムラウシ、日高、芦別、夕張の山々、上カミホロトク山から富良野岳へと稜線がつながっている。まさに360度の展望であった。

頂上で一休みしているとスペインからのパーティーお国柄が大変明るい。十勝頂上から美瑛岳の稜線がなだらかにつながっていて、天気も良くこれでは行かざるまいと腰を上げる。

なだらかな稜線を辿り、鋸岳のちょっとした岩場を越えて美瑛岳を目指す。コルから美瑛岳の頂上へ、途中美瑛富士の道を分けて頂上は岩稜帯の狭い処にあった。

ここでは栃木から来た方が何かと説明してくれてご当人は5月に家を出てワゴン車を改造し、北海道の山々を写真を撮りながら回り、家にはお盆の時期に帰るとのことであった。別れ際、ブログをのせているので是非見てくれと名刺を戴く、一足先に先に下るとのこと、気を付けてと挨拶するとなんと右手が不自由なのである。三脚を左手に抱え美瑛からの急な下りをバランスよく下山して行った。大変に明るく逞しい方だなと感心する。

頂上からのパノラマを楽しみ望岳台への道を下ってゆく。途中には雲の平という台地もあってこの道は高山植物の花々が今を盛りと咲いていて時間の経つのを忘れさせてくれた。途中ポンピ沢を渡渉し、トラバース気味に今朝登ってきた道と合流し、望岳台の登山口へと戻った。

この駐車場でも香港からの3人の学生が麓の町に帰りたいが載せてくれないかと頼み込んでくる。こちらもブロークンな英語で対応するが、中国語で話すので最初是要領を得ず、彼らはスマホで意志を伝えてくる始末。白金温泉までなら載せるよと言ったら喜んで、「謝謝」とまた、スマホを示す。肩掛けカバン一つで十勝岳に登りに来たとのこと若者は行動的だなと感心する。

途中、北キツネが道路に飛び出し喜んでいた。山中ではシマリスを見たがナキウサギには会えなかった。

翌日は、帰り際十勝岳温泉まで行って富良野を見て帰ろうと言う事で温泉に向かう。

途中まで登山道を登り、写真を撮っていると中年の登山者が降りてくる。何処から来たのかと聞くと大雪山旭岳から4日掛けて縦走し上富良野岳から降りてきたとのこと、話しているうちに昨日美瑛岳の頂上に居ましたよねとの話、思い返すと確かに話はしなかったが来ている服で見覚えがあつた。大変元気な方で荷物は天幕含め15kgに纏め、まだ食料は残っているとのこと。

そのバイタリティーに驚く。私も一度は縦走してみたいコースでもあっただけに興味深くあれこれと聞く。ヒグマの糞は見たが幸い会わなかったという。

この縦走中、オプタテシケ山の登りで雪渓を直上し、夏道へのトラバースで後ろから来た登山者が滑落した時はどうにか止まってくれと祈ったという。滑落は自分もそうだが、人が滑るのを見ているのもあまり気持ち良いものではないという、確かに同感である。最初20m位落ちた処でいったん止まりかけたが、又滑りだし、50m位滑ってやっと止まった時には心底ホットしたとのこと。声を掛けると大丈夫とのこと安心したとのことであった。美瑛岳の肩で私はその人と話をしていたとのことであった。やはり急坂の雪渓ではストックだけでは心もとなく、ピッケルか、アイゼンが欲しくなるものである。

名古屋からのこの方もこれから旭川に出て旭岳登山口に置いてある車を回収するとのこと、丁度我々も空港まで戻るのに乗って行って下さいと同乗して貰う。山旅ではいろいろな人との出会いが旅を楽しくさせてくれる。

次は何処の山に登ろうかと思うが、気力だけでは段々と山が遠ざかる今日この頃である。

